

## 日ロ首脳共同会見

(要旨) Ⅱ上面参照

プーチン大統領 今回、特に私たちが重視したのは両国の経済協力だ。日本という国は、ロシアの隣国でパートナーでもある。ロシアと日本の協力は、信頼と相互利益の原則のもとにダイナミックに発展している。当然ながら平和条約問題についても議論した。相互に受け入れ可能なこの問題の解決策の作業を活性化するように、両国外務省に指示を与えた。

安倍晋三首相 プーチン大統領と私は、戦後67年を経て日ロ間で平和条約が締結されていない状態は異常であるとの認識を確認した。その上で双方受け入れ可能な解決策を作成する交渉を加速化させていく。その指示を両国外務省に共同で与えることで合意した。今後、大統領と私は外務省間の交渉について報告を受け、議論していきたい。平和条約交渉はこの数年間、停滞していた。今回の会談で交渉を再スタートさ

せ、加速化させることに合意したことは大きな成果だったと思う。私は日ロ間の最大の懸案であるこの問題に直接取り組み、解決に向けて全力をあげる所存だ。今回、平和条約交渉を含めて幅広い問題について胸襟を開いてじっくり話し合い、個人的信頼関係が生まれたと実感している。私から大統領の2014年の訪日を招請し、大統領は謝意を表明した。

——北方領土交渉をどのように進めるか。

安倍氏 戦後67年以上たっても解決しないこの困難な問題を、一気に解決する魔法の杖は残念ながら存在しない。双方の立場に隔たりが大きいのは事実だが、腰を据えて今後の交渉に取り組みたい。首脳の決断なしにはこの問題は解決しない。この信頼をもとに、私と大統領がともにしっかりと取り組んでいきたいと思う。

プーチン氏 戦争が終わ

って68、67年、問題解決されていない状態があつて、この問題が明日解決することはないと思つたが、作業をこれから進め、両国にとって重要な問題を解決すると期待している。

——北方領土ではロシア政府によるインフラ整備が進み、実効支配が強まっている現実がある。領土交渉への影響をどう考えるか。

安倍氏 ご指摘のような状況は、たしかに日本の立場と相いれないが、今回の共同声明で「双方の立場の隔たりを克服し」とあるように、問題を根本的に解消するために、北方領土問題を解決するしかない。

プーチン氏 この問題はわれわれがつくったものではなく、過去からの遺産だ。真にこの問題を解決したいと思う。受け入れ可能な形で解決したい。この地域には、ロシアの他の地域と同じロシア国籍がある人たちが住んでいる。われわれはこの人たちの生活を考えねばならないし、生活水準を考えねばならない。